



近世時人傳
五



坂伊

晴入傳卷之五

並河天民 附馬杉亨安

天民並河氏、律亮、字、尚亮、年、通名、と、次、誠、所、

五、一名、永、貴、字、永、又、仁、母、の、人、也、カニ、カキ、日、の、身、城、南、多、村、横、

大、海、の、人、自、母、波、と、ち、ら、ん、その、中、國、を、為、人、眼、

中、才、秀、は、ま、ぶ、影、り、伊、藤、仁、母、小、ま、り、と、

い、つ、は、は、ま、の、ま、り、と、う、ら、い、て、カニ、カキ、一、ま、り、と、ま、り、

其、後、の、天、民、造、る、ふ、ん、は、は、伊、藤、杉、山、より、

多、分、清、く、お、お、幅、を、く、も、國、を、の、清、く、意、し、て、

著、き、り、杉、山、野、浪、に、一、編、を、取、地、の、浪、ま、り、内、の、を、

一、二、の、浪、ま、り、の、お、り、に、座、禪、僧、の、蒲、團、を、小、鼻、

端、の、白、ふ、を、穿、り、と、ま、り、の、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、と、ま、り、

晴入

不反まゝに國まゝとてのりて、
の辰と稱して比喩の神代卷の文法とて
又徹書記のよめるお持衣の舞ふ麻
と記して、持衣の持りしを、おと
とけせん、とて麻よめ、
お弁奉澄々舞、車懸のうら半、
とあけて、まゝ我、
物持、
ひ、

けいたたはふりて、
はく人の書書、
はく人の書書、

のりて、
の辰と稱して比喩の神代卷の文法とて
又徹書記のよめるお持衣の舞ふ麻
と記して、持衣の持りしを、おと
とけせん、とて麻よめ、
お弁奉澄々舞、車懸のうら半、
とあけて、まゝ我、
物持、
ひ、

馬枚亭安智人、
天民の、
予、
お、

詩人

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive script.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some larger characters that stand out, possibly indicating the start of a new section or a specific word. The overall appearance is that of a personal or official document from a historical period.

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Arabic or Persian. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines across the page. The script is dense and fluid, with many loops and flourishes. There are some larger characters that stand out, possibly indicating the start of a new section or a specific word. The overall appearance is that of a personal or official document from a historical period.

Small handwritten text or signature located at the bottom right of the page.

Small handwritten text or signature located at the bottom right of the page.

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...

Handwritten text in cursive script, likely a historical document or letter. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark on aged, slightly yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in cursive script, continuing from the previous page. The text is written in a fluid, connected style across approximately 15 lines. The ink is dark on aged, slightly yellowed paper. The script is dense and fills most of the page area.

Handwritten text in Arabic script, likely a religious or philosophical treatise. The text is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter 'ا' and continues with several lines of text.

Handwritten text in Arabic script, continuing the text from the previous page. It is written in a cursive style and spans the width of the page. It begins with a large initial letter 'ا' and continues with several lines of text.

西人抄本

ちよふつた人を時きして美きつらいつら、
 ちよ著あをさるふ実く博学強記なるか
 ずよ、治務の才前後その数種あれたを、
 其流の純なる方好せるふとあじ、凡者附の
 送名あつたといふこと、亦但丹溪の富属と
 いづつと、いづつと、いづつと、いづつと、
 知秋花（カモ）の流をさる婦て、依
 彼（カモ）の言、曰、為人治療則不可不念、漢
 仲景之書也、又字れ物法を的るせり、あ、
 廣に使集り、中山三柳の本草、又中を、
 せ、ふ、ん、如、之、多、能、く、一、上、益、風、鑑、也、
 今、の、ま、の、い、ま、も、い、ん、の、才、と、量、し、ま、を、
 今

同正一服懸



同正一服懸

五

隠家花睡 花はさかすけの御指

入

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

隠家花睡

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

花はさかすけの御指

且樂と云ふに、
と名付し、
と自らし、

考へ凡そ、
井上通女

通女は、
十八の頃、
時々の記と、
とふの記、
つる吉小塚、

漢の信、
通女所著、
社事一集、
譲りて、
盤校、
乃、
け女の、
有馬涼及、

有馬氏、
と業、
寒、
玉、

ありて母く不拘し、相態侍りし所の多活後、
神代原及馬外、又存庵しり、

後水尾院特徴し御医と、階下印と福入御

療の如事、衆醫侍りて、
一、帝御病甚しき時、
我より治すべし、
は不強し、止事と、
やがて御怒し、
御病速く杖履さし、
まばり、
ありと、
困る、

とも於局を、
て糸師、
それの、
小少り、
下付、
病、
行、
使令、
す、
兩、
お、
即、



が我友の... 毎... 肥後... 著... 業... 徳...

雲

雲... 肥後... 徳...

雲... 肥後... 徳... 雲... 肥後... 徳...

雲

雲

小なる茶と愛ある事、後自願して
糧絶つ所、窮樂とて思て、心とあつて
賑とて思、心とあつて、賑とて思、心とあつて

無業無報竹筒堂、恰似波長車、轍窮

多謝持来親、賑濟、單瓢、充得、養、養、窮

あつた大なる酒樽と目をして、その口をわけて、男女のま
どをたのむ女は、酒の樽と、その口をわけて、男女のま
人こそ、何事ぞ、一は、洋風を、やり、はる、報
あふ人、心とあつて、賑とて思、心とあつて、賑とて思、心とあつて
あつた、心とあつて、賑とて思、心とあつて、賑とて思、心とあつて
あつた、心とあつて、賑とて思、心とあつて、賑とて思、心とあつて
あつた、心とあつて、賑とて思、心とあつて、賑とて思、心とあつて

味増搦寸

者むつ



米以毒

くまむ

貧亦海々

ちよこ



窮樂道人自画讚

時人抄

三十五

万の態たがらうとて、そなたはさういふ事
細房がさういふ事には、

新樂すまじの事とて、終つて、たゞこゝに
けいこ、後、酒の平が糧をわが斗へば、

まゝの態への事とて、さういふ事とて、
はなごすれたる、此細房の事とて、
單と某、いづれ、此道人の事とて、
地ちの事とて、正月の事とて、
我高、いづれ、いづれ、
象とて、さういふ事とて、

山村通庵
松平駿雲

法橋通庵名は高、伊豫國松坂の人、水島の康流
がれとて、そなた、同、山村、
あゝ、云、云、云、云、
とき、風流の波、
て、自在、
曰、
と、
誠、
細、
か、
能、
右、
殿、

山村通庵

三十四

病去の... 大難國... 悦び... 禪師... 英雄人... 此

私云、向... 此... 英雄人... 此

此... 此... 此

畸人傳拾遺

嗣生

寬政二年庚戌秋八月

菱屋孫兵衛

林 伊兵衛

梅邨宗五郎

栗本喜兵衛

野田儀兵衛

鷓鴣惣四郎

平安書林

